

会の愛称は、“さざなみ”

富浦協働つうしん

2月10日(木)

第二回「地域づくり協議会設立準備委員会」等を開催

市役所会議室で、1月26日に、第二回「地域づくり協議会設立準備委員会」が開かれ、市民22名が参加しました。会議では、①会の愛称、②会の活動目的等が話し合われ、愛称は「さざなみ」となりました。

また、元気倶楽部で1月14日、「地域づくり協議会設立準備委員会」のグループ会議が開かれ、市民12名が参加しました。

会議では、①和田地区のふれあい喫茶「なごみ」の見学結果の報告、②各自が思い描くコミュニティ・カフェのイメージ等が話し合われました。



多くの会の愛称を話し合おう。地域づくりの会を考えた皆さんの



コミュニティ・カフェ

例えば、このコミュニティ・カフェのサービスマン対象者の中心は、「地域の住民」とすることとしました。次回は2月下旬、各グループの具体的な活動内容、スケジュール等の共有化を図っていきます。多くの方々の参加をお待ちしております。



地域づくり協議会設立準備委員会の副委員長

堀内久光氏 朝日昭氏



おのこの抱負を語る、堀内さん(右)と朝日さん(左))



グランドゴルフの体験学習を行う会員の皆さん

私のイメージする地域づくり

堀内久光さんの話

子供にとつて、遊びは心身の成長に欠くことの出来ないものです。

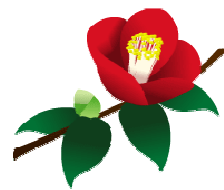
特に「仲間遊び」は、社会性の形成に欠かせません。

富浦の町にも、遊具がそろい、安心して親子が集い、共に遊べる場が必要ではないでしょうか。皆さんと手を取り合って「遊び場」を実現したいと考えています。

朝日昭さんの話

現在、私達は地域づくり協議会の設立に向け、急ピッチで、会の「規約」づくり等を行っています。

この規約が富浦に住んで良かったと、地域の皆さんに思ってもらえるような「地域づくり」の指針となるよう努力していこうと考えています。



富浦の現状

出生者数は横ばい

近年、富浦の出生者数は、図1の通り、ほぼ横ばい状態を続けています。南房総市全体の出生者数も、減少に歯止めがかかっておらず、減少の一途を続けています。

今後、高齢化が更に進行する中で、出生者数が大幅に増加し、富浦の発展に寄与していくとは予測しがたい状況です。富浦の課題と今後の対応を皆んなで一緒に考えてみませんか。

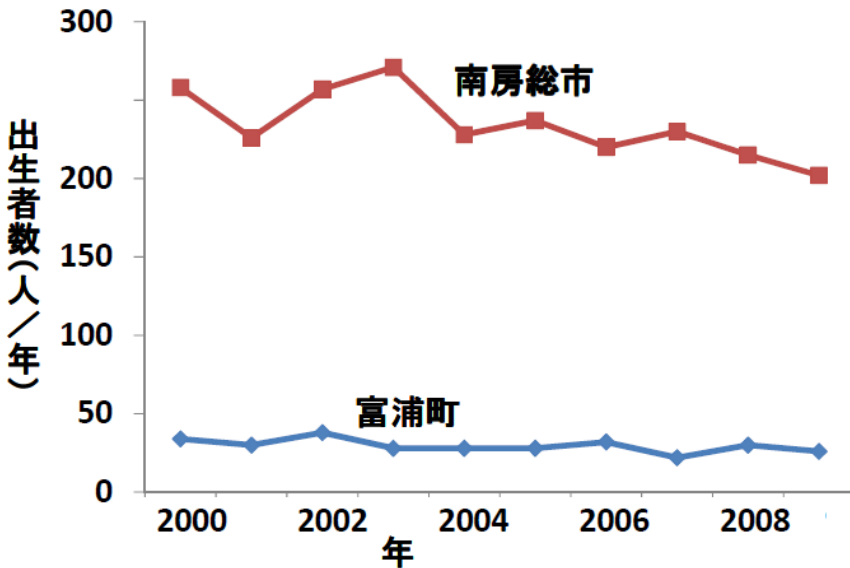


図1. 富浦町と南房総市の出生者数の推移



八東小学校生とKim. Hendersenさんとの英語での交流

子供達は、Kim. Hendersenさんと英語でのびのびと学習を楽しんでいました。



中国重慶人民小学校との交流

1月21日(金)重慶の小学生36名が富浦小学校を訪問し、同体育館で、縄跳びや合唱等で交流を深めていました。

小学生の国際交流の場はにぎやか

行事予定

3月4日～11日、ワシントン・ミドルスクールの先生、生徒が富浦中学校に来校予定。
富浦中学校の生徒との交流を中心に、房州うちわ作りやイチゴ狩り等の体験も計画。
3月、大房岬の天然ワカメが解禁予定。

富浦の昔ばなし

ワカメの食べ方

昔むかし、大房岬の増間島の水神様をお参りに来た増間村(今の三芳村)の人が、ワカメをたくさん拾いました。しかし、せつかく拾っても食べ方を知らなかったため、近くにいた多田良の漁師に聞きました。

漁師は親切に教えました。「ワカメはみちをひいて食わっせえ。そうするとうまいよ。」

みちをひくと言うのは漁村の人たちの方言で、筋を取る意味ですが、増間の人は、そうとは知りませんから、拾ったワカメを縄で縛り、道の真ん中をずるずると引いて歩き出しました。

何しろ増間村と言うのは、船形、那古、正木(以上館山市)、三坂、千代、下滝田(以上三芳村)の村むらの道を何里も歩かねば届かぬ山奥ですから、ワカメは大変なことになってしまいう筈です。

案の定、せつかく持ち帰った房州うまい多田良のワカメも、やわらかい葉のところがつっかり擦り切れてしまい、かたい筋ばかりになってしまいました。

それでも増間の人は、そのワカメをうまいうまいと食べたのです。

著者 生稲謹爾氏

